



きものの素材選び(上左)から、型紙を元にした縫製を行う会のメンバー(上右)



参加者一人ひとりがふろしきを手に結び方を学ぶ(右)

脱温暖化へ普及活動を支援

リメイク・ふろしきなどの『出前講座』を開催

脱温暖化センターひろしまでは、『出前講座』と称して、地球温暖化防止活動の普及啓発のため、公衛協、地球温暖化対策地域協議会などが開催する地域単位、学校単位で実施する学習会の支援を行っています。

7月に実施された2件についてご紹介するとともに、今年度の『出前講座』について、一部費用の助成なども行っていますので、実施の予定・ご要望があれば当センターまでご相談ください。

◇ ◇
くれ環境市民の会は、7月10日に呉市郷原公民館で、「きもののリメイク講座」を開催しました。

普段から環境問題に取り組んでいる会の推

進員7人が、持続可能なファッションを考え、タンスに眠っている自然素材の和の布を素材にリメイクをする講座です。今回は、「きもの」を「ワイドパンツ」にリメイクしました。

素材選びから、手入れ・洗濯の方法等を学び、型紙は、誰でもリメイクできるように簡単な形に工夫され、1日の講座で完成まで仕上げられる内容でした。会のメンバーで講師をした桐山千歳さんは、「会の推進員がこの講座でスキルアップをして、地域住民に広める講師となれば」と学習会を開催した思いを語られていました。

次に、福山市川口学区公衆衛生推進委員会では、7月24日に「ふろしきの包み方学習会」を開催し、川口公民館に地元住民32人が集まりました。

フラスチックごみの問題を考えるとともに、7月1日からのレジ袋有料化に伴い、用途が広い「ふろしき」の包み方を学んで欲しいという小林哲仁会長の挨拶で始まりました。

講師の広島県環境保全アドバイザーの信濃晋介さんから、地球温暖化と災害についてや、瀬戸内海のごみ調査や海底ごみの量について説明があった後、実際に一升瓶やペットボト

「共助防災」と題して研修会を開催

家族や近所、自治会などで防災を考える



開会にあたり研修の意義を説明する小林会長

当協会は、平成30年度7月豪雨以降、防災の視点で、公衛協はどのようにまちづくりに関わることができるかを検討してまいりました。広島県公衆衛生大会の大会宣言においても「防災・減災・復興に活かす公衆衛生活動の推進」を掲げており、今後発生しうる災害に向けて、平時、防災時、発災後に公衛協ができることを考え、備えを

進めています。8月1日、福山市川口学区公衛協が同学区のまちづくり推進委員会と共催して、隣組ベル(30×40軒)で防災力を高めることをねらい、「共助(隣・近所)で「防災」と題して研修会を開催しました。当協会職員による講師のもと、約25人が実際の被災事例からの「備え」について考えま

今回の講座では、令和2年2月に実施した専門研修「防災・減災コース」の教材としてまとめた「汚泥の撤去」「家屋の消滅」「共助井戸」「災害ごみの分別」の項目に沿って、被災するようになるか、何が必要か、どんなことに困るかなどを講師の体験談も含めてお伝えしました。合わせて、広島県の「みんなで減災」備えるフェアについても紹介し、チラシを利用し、備蓄や避難先・避難タイムングなど、我が家の備えを促しました。

参加者には、防災士や自主防災会の会長もおり、「役割の補完や協力など」「コミュニケーションをとることが大事」「子どもの一時預かりなどできることがあると感じた」「地域の子どもたちに郷土愛を育む学びを継続していくことが大事」「自治会の費用など負担はどうだったのか」など様々な質問・感想が聞かれまし

新しい暮らしの情報提供へ

要望の10公衛協へチラシを配布

新型コロナウイルス感染症対策により、3密となる会議や研修会など人が集まること

難しくなっています。一方で、「環境づくり」や「健康づくり」の実践活動は、個人や社会に

とって重要な活動です。このため、推進委員の皆様は、コロナ禍においても地域清掃や水

新型コロナウイルスと公衆衛生活動について

新型コロナウイルスの感染拡大により、イベント自粛や外出の制限など私たちの生活にも大きな影響が発生しました。

これにより一斉清掃の実施見送りや奥ごもりによる家庭ごみ増加、ごみに関連した感染リスクの増加、運動やコミュニケーションの減少など私たちが目指す、健康で住みよいまちづくりには大きな課題が発生しています。

第2派の感染拡大を防ぐためにも、私たちができるとあると思います。

ここでは、皆さまの活動に役立つよう、省庁や県、有識者などが発信した情報をまとめているので、推進委員としての活動にお役立てください。

情報源は次のとおりです。

厚生労働省・環境省・経済産業省・国土交通省(気象庁)・広島県、漫画家 など
※利用する際は出典を明示してご活用ください。

◎ 家庭環境について

- 家庭内で感染を拡大しないために
- 感染対策の家庭ごみの捨て方
- 2020年夏の気象予報と過ごし方(熱中症に注意)

◎ 防災・減災 梅雨時期の災害に備える

- 広島県の防災・減災に

◎ 家庭環境について

● 家庭内で感染を拡大しないために

・ご家庭内でご注意いただきたいこと(厚生労働省 令和2年3月1日版 PDF)



・新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために(厚生労働省 令和2年3月1日版 PDF)



路清掃、ごみステーションの維持管理など、小さな「ミニ」単位での活動を日々継続して取り組まれていることと思います。

地域活動支援センターは、各県庁などが発信する新しい暮らし方の参考になる情報を集め、HP(写真)に掲載し、文書を公衛協事務局に届けました。届けた情報は、「新型コロナウイルス対策」「新しい生活様式」「熱中症」「防災」など15種類あります。この中で、各公衛協が住民に届けたという考えのチラシを選んできた、8月7日の段階で、10公衛協から20件の要望を頂き、約4万枚のチラシを印刷して届けました。この費用は『環境・健康募金』の一部を活用しています。

同様の取り組みは、2015年に「 Deng 熱の感染予防に係るチラシ」を県内各戸に75万枚届けました。今後、HP(写真)に掲載し、文書を公衛協事務局に届けました。届けた情報は、「新型コロナウイルス対策」「新しい生活様式」「熱中症」「防災」など15種類あります。この中で、各公衛協が住民に届けたという考えのチラシを選んできた、8月7日の段階で、10公衛協から20件の要望を頂き、約4万枚のチラシを印刷して届けました。この費用は『環境・健康募金』の一部を活用しています。